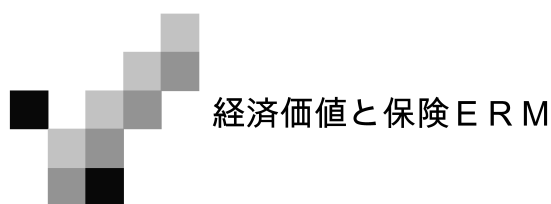


# 経済価値と保険 ERM

明治大学理工学部 教授 松山 直樹 氏

【司会】 後半の最初のほうでございますが、テーマは「経済価値と保険 ERM」ということで、明治大学理工学部教授の松山さんからよろしく願います。

【松山】 ただいまご紹介にあずかりました、明治大学の松山でございます。2年ほど前までは、よく似た名前の保険会社に所属しておりました、関連会社に移ったのかと聞かれたこともあります、資本関係は一切ございません（笑）。私のプレゼンテーションですけれども、震災で中止になった前回の構成ではパネルディスカッションの前にあったかと思いません。目的としましては、パネルディスカッションに入る前に、基本的な用語や考え方を1回整理しておこうということで、これまでの非常に実際の、実務的なお話とは少し違った視点からご紹介していこうと思っております。とりあえず、この後に英語の厳しいセッションが控えているそうですので、私のお話のほうは肩の力を抜いて聞いていただけたらと思います。



JARIPフォーラム 2011.5.23  
ソルベンシー II と保険会社のERM  
明治大学大学院 理工学研究科  
新領域創造専攻 数理ビジネス系  
松山直樹

## ERMの枠組み

- ERMの枠組みには様々な提唱があり決定版はない
- 最大公約数的には、金融のERMは「統合リスク管理やALMを包含し、全体性と効率性の追求が強調される内部管理プロセス」

「リスク・ガバナンス」⇒ 全体性、効率性の追求

▽

ERM ⊃ IRM(統合リスク管理) ⇒ 「リスクの分散/吸収・資本政策」  
⊃ ALM(資産負債管理) ⇒ 「リスクの市場移転」

まず、このセッションの中でも、耳にタコができるほど、このERMという単語を聞かれていると思うのですが、ERMについては、植村さんの示された図と、ほかの方が示された図が違ったように、いろいろな枠組みがあります。私が知り得る限り、この枠組みが最初に提唱されているのは、COSOの2004年のERMフレームワークではないかと思えます。これのきっかけになっているものが、有名な2001年のエンロン事件でございます、このエン